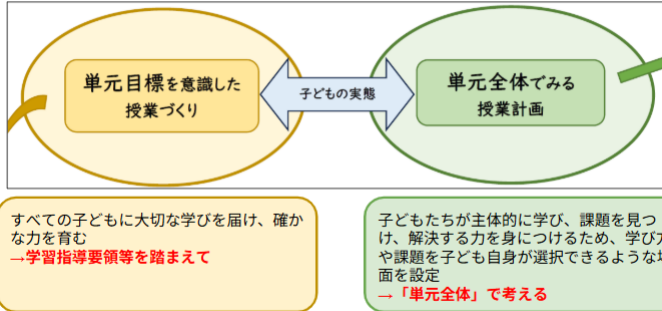


○授業ベーシック研修ありがとうございました。

### 3. ベーシックの内容・ポイント



「単元目標」「単元計画」 まずはこの2点を意識！！

新・旧の授業ベーシックについての話をセンター長、市教委前馬さんがして下さいました。

今後の門真市としての授業の基本となる形です。自立した学習者の育成を目指して、授業ベーシックを参考に授業づくりをしていけたらと思います。

### 新・旧授業ベーシックの共通点:教育の「軸」と「組織的な取り組み」

- ・学習指導要領の重視: つけるべき学力は「学習指導要領」に基づき設定されるべきと強調している。
- ・「単元」単位での設計: 1回1回の授業をバラバラに行うのではなく、「単元目標」を明確にし、単元全体で計画的・系統的に授業を構想するという考え方が共通している。
- ・指導書、手引きの活用: 指導目標や言語活動例、学習の手引きを参照し、活用することを推奨してる。
- ・組織的な活用: 学校として組織的・継続的に取り組むことの重要性が説かれている。

### 新・旧授業ベーシックの相違点: 重視する「視点」と「教師の役割」

項目	授業づくりベーシック(初版)	授業づくりベーシック 第2版
主な目的	「どのような学力をつけるか」の曖昧さを解消し、「すべての子どもたちの可能性を引き出す」ため、全国標準の学力を保証する。	自立した学習者を育てる。
重視する視点	教科書・指導書に基づく計画的・系統的な指導。	子ども自身が学び方を身につける**「子ども主体」の授業づくり**。
教師の役割	学習指導要領に基づき、目標に直結した力を確実に身につけさせる授業者。	一人ひとりの学びに寄り添い、引き出す**「学びの伴走者」**。
子どもの姿	単元目標で示された学力を着実に積み上げていく学習者。	自ら学習方法や課題を選択し、自己調整しながら学ぶ「自立した学習者」。
ICTの活用	(具体的な記述は少ない)	協働や思考を深めるツール、個に応じた支援として積極的に活用する。
キーワード	指導事項、配列表、全国標準。	資質・能力、学びの伴走者、ユニバーサルデザイン、自己調整。

## 新授業ベーシックで新たに追加・強調された要素

- 個別最適な学びと協働的な学び：子どもが自分のレベルや興味に合わせて\*\*「学び方」や「課題」を自ら選ぶ\*\*場面の設定や、他者と協働する場面の重要性が強調されています。
- 振り返りの質の変化：単に「内容」がわかったかだけでなく、「学び方（学習方略）」についても振り返りを行うことで、次の学びにつなげる工夫が求められています。
- 学習環境の土台：「安全・安心な学習環境」や、誰しものが学びやすいユニバーサルデザインの視点が授業づくりの土台として明記されました。

旧授業ベーシックが「教えるべき内容の確実な履行」に重点を置いていたのに対し、新授業ベーシックは\*\*「子どもが自ら学ぶ力をいかに育むか」\*\*というプロセスの支援に重点が移っている点が最大の違いです。

◎今年度目指すところをまとめると、

### 1. 「単元」を貫く視点での設計

- 学習指導要領と指導書への準拠：授業者個人の主観ではなく、学習指導要領に基づき、指導書を参照して「単元目標」と「評価規準」を明確に設定してください。
- 単元全体での構想：1時間ごとの完結ではなく、単元全体で学習の流れ（導入・展開・まとめ）を計画し、学力を系統的に積み上げることが重要です。

### 2. 「子ども主体」へのシフト

- 見通しの共有：設定した目標や単元計画、評価規準を子どもたちと共有し、子ども自身が「何ができるようになるのか」という見通しを持てるようにしてください。
- 「自分で選べる」場面の設定：子どもたちが自分のレベルや興味に合わせて、学習方法や表現方法、取り組む課題を自ら選択できる場面を設計に取り入れてください。
- 多様な学びの形態：「一斉・グループ・1人」の時間をバランスよく配置し、必要に応じて他者と協働する場面を設定してください。

### 3. 「自立した学習者」を育てる支援

- 学びの伴走者：教師の役割を、単なる知識の伝達者から、一人ひとりの学びに寄り添い引き出す「学びの伴走者」と定義し直してください。
- 質の高い「振り返り」：学習内容だけでなく、「どのように学んだか（学習方略）」についても振り返る時間を持ち、次の学びへつなげる自己調整力を育ててください。
- ICTの積極活用：調べ学習やドリルだけでなく、子ども同士の協働や思考を深めるためのツールとしてICTを組み込んでください。

### 4. 学びの土台となる環境づくり

- 安心・安全とユニバーサルデザイン：誰しものが学びやすい「ユニバーサルデザイン」の視点（短い指示、適度な情報量、何度も挑戦できる時間など）を授業づくりの土台として大切にしてください。

どのような授業設計をするか、また一緒に考えていけたらと思います。

